

日本海洋学会 2016 年度第 4 回幹事会議事録

日時：2016 年 9 月 11 日（日）18:00～20:30

会場：鹿児島大学郡元キャンパス 共通教育棟 2 号館 212 号室（第 1 委員会室）

出席：日比谷会長、神田副会長、石坂、市川、伊藤、小埜、川合、河野、齊藤、鈴木、津田、東塚、原田、山中、毎日学術フォーラム（小野、平坂）

議題：

1. 議事録承認（川合幹事）

2016 年度第 3 回幹事会の議事録案を確認し、承認した。

「海の温暖化」の刊行補助について、東京大学海洋アライアンスによる補助がない場合は、広報委員会の予算を使用するのか質問があったが、広報委員会の予算でないことが確認された。東京大学海洋アライアンスからは刊行補助が出る見込みだが、状況について確認することとなった。

2. 審議事項

(1) 入退会について（東塚幹事）

2016 年 6～7 月の入退会を承認した。入会 27 名、退会 8 名、団体会員 1 名、ご逝去 2 名、2016 年度 7 月末現在の会員数 1669 名。

団体会員 1 名の登録が本当に団体会員として登録したかったのか確認することになった。

これに関連して、雑誌媒体が電子媒体に代わったので、団体会員の享受する利益等の整理が必要になる可能性があるとの指摘があった。

(2) シンポジウムの後援・協賛等について（東塚幹事）

3 件の後援・協賛について承認した。

(3) 公募・推薦・周知の依頼について（東塚幹事）

公募・推薦 3 件、シンポジウム・講演などの案内 1 件について、ML 配信その他の対応を行ったことが報告され、承認した。

青い海助成事業で助成したイベントについて外部に広表する場合、青い海助成事業で実施したことを明記することが募集要項に記載されていることを確認した。

(4) 2016 年若手海外渡航援助（後期）について（神田副会長）

応募者の選考はメールで審議することとなった。

(5) 「海の研究」 特集号企画について（市川幹事）

特集号「鉛直混合と北太平洋中深層循環」の刊行と担当特別編集委員の委嘱の提案があり、承認された。

(6) 2016 年度秋季評議員会議事次第案について（東塚幹事）

2016 年度秋季評議員会議事次第案が説明され、承認された。

3. 報告事項

(1) 会長（日比谷会長）

2017 年春季大会（JpGU-AGU 合同大会への合流開催）について JpGU へのセッションの申し込み前に日本海洋学会 2017 年度春季大会実行委員会で、事前にセッションの調整を進めていることが報告された。

海洋生物学研究会の提案について、事前に評議員に周知したことが報告された。

マスタープランの融合領域の新規提案として提案した「深海アルゴフロートの全球展開による気候・生態系変動予測の高精度化」について、進捗状況が報告された。

(2) 副会長（神田副会長）

若手支援、若手研究者との対話について、報告された。

(3) 庶務（東塚幹事）

会員名簿を発行したことが報告された。

会員名簿に掲載する更新情報を入力するための会員情報管理 Web システムの契約を導入したが、721 件の情報更新があり、前回の紙ベースの 265 件よりも更新が大幅に増え、会員情報管理 Web システムの導入効果がみられたことが報告された。

名簿広告として 6 企業／団体から出稿して頂いたことが報告された。

(4) 編集

① JO（石坂編集長）

72 巻 4 号が発行され、順調に発行が進んでいることが報告された。

Hot Spots, Earthquake, K2S1 特集セクションの編集作業がほぼ終了したこと、新たに 2 つの特修セクション “Radionuclides in coastal sediments after the accident of Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant” および “Cooperative Monitoring Program of Ariake Sea (COMPAS)” の編集作業を進めていることが報告された。

転載許可 2 件があったことが報告された。

JO が 2016 年で発刊 75 周年を迎えたことが報告された。

リジェクトすべき論文を誤って受理し、オンライン掲載してしまった事案については、online first 上で掲載取り消し (retraction) を掲載し、10 月号に retraction note が掲載されることが報告された。

初めての Open Access Article が発行されたことが報告された。

② 海の研究 (市川編集長)

現在の編集状況が報告された。

③ ニュースレター (津田編集長)

第 6 巻 2 号を配布したこと、春季大会の報告は掲載ページの関係で次号に回したことが報告された。

(5) 研究発表 (鈴木幹事)

2017 年度春季大会のセッション提案として 11 件を申請があったことが報告された。提案はまだ募集中で、セッション提案が少ない場合はゼネラルセッションを幹事で申請する予定であることが報告された。

(6) 選挙 (山中幹事)

2016 年度選挙予定について以下の通り報告された。

役員選挙に関して、選挙公示が 9 月 1 日に行われた。投票締切は 11 月 30 日の予定。12 月 2 日に開票を行うため、幹事の応援要請があった。12 月 9 日には役員確定の予定。

幹事・賞選考半数改選・可否投票については、12 月 21 日に各賞可否投票・推薦書の提出、1 月 11 日に投票締切、1 月 18 日選挙結果確定、1 月下旬にニュースレターに開票結果掲載の予定。

(7) 広報委員会 (原田委員長)

サイエンスカフェの宣伝、講師派遣事業の開始と講師との情報交換会の実施、秋季大会における学生および若手向けキャリアパス支援ブースの開設、ナイトセッション「海洋学を活かせる進路について」(2016 年 9 月 14 日) の開催、2016 年度秋季大会セッションのプレスリリースの実施などを行ったことが報告された。

(8) 教育問題研究会 (伊藤幹事)

次期学習指導要領改訂に向けての活動、「一家に 1 枚」ポスター企画への応募 (2016 年 5 月 18 日)、大学施設を利用した海洋教育の実践 (2016 年 6 月 14 日)、「女子中高生夏の学校 2016」への協力 (2016 年 8 月 7 日)、東京都理数系教員指導力向上研修講師派遣 (2016 年 8 月 12 日)、出前授業講師派遣事業、国際地学オリンピック

への協力（2016年8月6日、9月19～27日）、第18回海のサイエンスカフェの開催（2016年9月11日）、シンポジウム「沿岸の水産・海洋学に関わる大学教育の在り方」の主催（2016年9月11日）、第5回COSIA（海洋科学コミュニケーション実践講座）の体験ワークショップの開催（2016年9月11日）、2016年度秋季大会時における一般セッションおよび海洋教育特別ポスターイベント「海洋教育・アウトリーチ普及活動の実践と課題」の開催などの活動と、日本海洋学会「一家に1枚」ポスター企画WGの活動予定について報告があった。

(9) JpGU（原田幹事）

2016年連合大会の報告、今後のセッション提案日程等のスケジュールと、2017年の大会が例年より一日多くなり、6日間（5月20日～25日）であることが報告された。

(10) 日本科学振興財団（日比谷会長）

日比谷会長が理事に就任したことが報告された。

(11) 震災対応（神田副会長）

防災学術連携体で実施するシンポジウムに、安田珠幾さんに講演をしてもらうこととなり、要旨が提出されたことが報告された。新学術領域 ISET-R の後継を申請する方向であることも報告された。

(12) 水産・海洋学研究連絡協議会（津田幹事）

11月開催のシンポジウムの計画が進んでいることが報告された。

(13) 若手支援（神田副会長）

秋季大会時における若手研究者との対話は、最終日のシンポジウムへの参加をもってかえることが報告された。

(14) 海洋観測ガイドライン編集委員会（河野幹事）

英語版の3分の1の原稿が集まっており、集まっているものから発刊していく予定であることが報告された。

(15) 2017年度以降の研究発表大会にかかわる諸問題検討WG（神田副会長）

約束通り2017年度春季大会時の総会の結果をみてから2018年度春季大会の実施場所を決定する方向に決めたことが報告された。

2017年度春季大会の実行委員会を、JpGU、研究発表、集会担当幹事およびJpGUプログラム委員の7名が務めること、海洋関連セッションのとりまとめを進めていること、これ以外に3月に海洋生物学に関連するシンポジウムを開催すること、を評議委員会で説明する予定であることが報告された。

2017年度春季大会時の委員会等の会議室の確保についてはまだ検討中であることが報告された。

(16) 海洋生物学研究会について（齊藤幹事）

評議員会に海洋生物学研究会の設立を提案することが報告された。

設立が承認された場合には、半期分5万円を予算化することが承認された。

次回幹事会：11月に開催予定